



石田健次 ● 君子蘭とつつじ

石田健次 ● 秋の小花

[スタンプ]

小さな小さな絹のキレが
ピンセットを使って折り込まれ
一枚一枚花びらの
つまみかんざしがうまれます

つまみかんざし博物館案内図



東京都新宿区高田馬場4-23-28ヒルズ ISHIDA401
TEL/FAX03-3361-3083 石田健次 毅司
ホームページ <http://www.ask.ne.jp/~kanzasi/>
メールアドレス kanzasi@ask.ne.jp

R100
全館照明率100%両方照明しています



つまみかんざし

簪

つまみかんざし博物館
TSUMAMI KANZASHI MUSEUM

●[開館日]水曜・土曜日のみ ●[開館時間]午前10:00～午後5:00

Shinjuku Mini-Museum
新宿ミニ博物館

世界で初めての「つまみかんざし」博物館です。

「つまみかんざし」って何?、と思われる方々も多いでしょう。

名前は知らなくても実物を見れば思い出すでしょう。

幼い頃の七五三や振り袖を着た時、

そして半玉さんや京都の舞妓さんなんかもつかっているあのかんざしです。

江戸時代から続きの髪飾りは、作り方・表現方法ともに

外国には無い日本独特のものです。日本人の持つ自然感や美意識から生まれ、

その美しさは世界へも通じるのではないのでしょうか。

四季の草花や生き物たち、

季節行事などを多く題材とした「つまみかんざし」は、

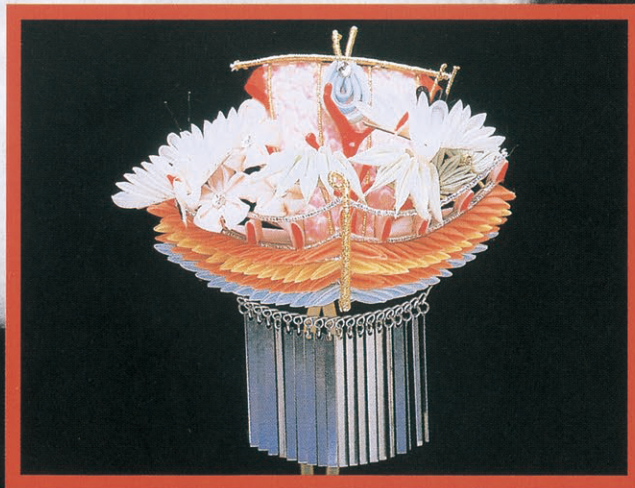
その小さな作品から大きな自然へと想像を広げてくれます。

夢を与えてくれます。豊かな心を育ててくれます。

小さな小さな博物館ですが、幼い頃見た絵本のように、

昔聞いたカーペンターズのレコードのように、

そんな淡い感動をここからお伝えできれば幸いです。



石田竹次◎宝船

TSUMAMI KANZASHI WORK OF ART

「つまみかんざし」とは、薄い小さな絹のキレをピンセットでつまんで作られる日本の伝統工芸品です。お正月やお誕生日などのお祝いの時に、着物姿の若い女性の髪を美しく飾ります。

今から200年ほど昔の江戸時代に髪飾りとして、「つまみかんざし」は生まれました。豊国や清峯の浮世絵にも画かれて居ります。その頃のヨーロッパでは、ベートーヴェンが音楽の世界で華やかに活躍していました。

現在、「つまみかんざし」の職人は15人位しか居りません。

美しい髪飾りに、お部屋のアクセサリーに、そして愛する人への贈り物にと、この「つまみかんざし」は現在も広く愛用されています。

TSUMAMI KANZASHI

As Tsumami means the act of pinching, the name comes from its process of traditional crafting by pinching a small, square-cut piece of cloth, which is usually obtained out of fine silk. This small but eye-catching article has been made into part of the quintessence of the Japanese handicraft, so as to further brighten typical hairdoes of young women with kimonos in celebration of New Years, birthdays, and so on.

The origin of this “work of art” dates back to Edo Period over 200 years ago, when Toyokuni and Kiyomine, Ukiyoe-painters, were well-reputed for their portrayal of current society, while in Europe Beethoven was in the highlight of his historical activities on music.

As present, there are only as many as 15 crafts-men who are skillful enough to work out these “Tsumami-Kanzashi” as shown here.

“Tsumami-Kanzashi” has been generally used as ornaments of your rooms, as well as for gift-sending purposes.



石田健次◎矢車と花菖蒲

つまみかんざしの製作工程

1

作品の構想

作品の図案・色彩の配色・材料の選定等の構想を練ります。

2

羽二重

薄手の羽二重(1巻きの長さ約43m)を8m位に裁断します。

3

染色

七五三用には化学染料を用い、成人式・大人用には草木染めの手法で、裁断した羽二重を染色します。

4

ノリひき

染め上がった羽二重は、屋外で伸子張りをを行い、刷毛を用いて薄くのりひきを行います。

5

きれたち

のりを乾燥させた後に物指して寸法を図り、丸庖丁を使って2~10cm位の正方形に裁断します。

6

つまむ

細かく裁断された羽二重を1枚ずつピンセットを用いて折りたたみ、のり板の上に並べていきます。この時に、和らかさを表現するには「丸つまみ」力強さを表現するには「角つまみ」の手法を使い分けます。

7

ふく

のり板に並べられた「丸つまみ」「角つまみ」は、ピンセットを用いて花や蝶の形になるように台紙の上に置いて行きます。

8

組み上げ

極天糸(絹糸)を用いて花や蝶を一本にまとめ、かんざしの形に組み上げていきます。

9

仕上げ

同じく極天糸を用いてピラや足を取り付け、髪に挿せるように仕上げます。